

農作物病害虫発生現況情報（8月）りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 8月後半の巡回調査でのふじの発生園地率は41.9%（平成60.0%）で平年よりやや低く、発生程度中以上の園地率は16.1%（平成17.4%）で平年並だった（図1）。
- (2) ふじの発病度は、平年よりやや低く推移している（図2）。

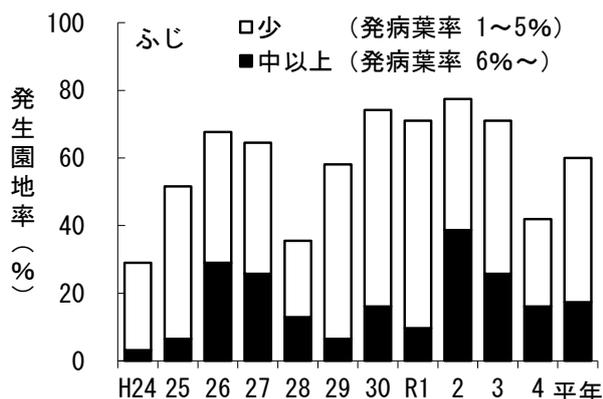


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（ふじ、8月後半、徒長枝上位10葉）

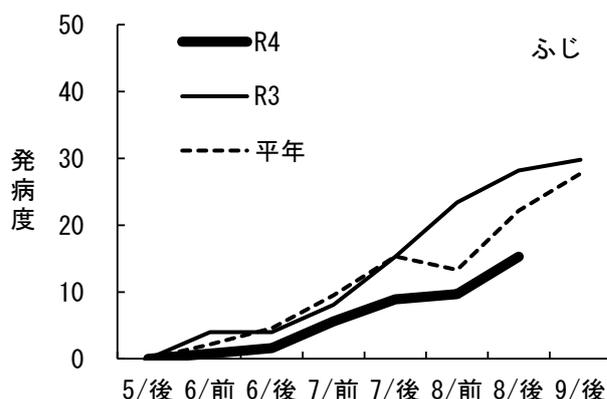


図2 斑点落葉病の発病度の時期別推移（ふじ）
 ※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病率21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の園地数

2 褐斑病

- (1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は19.4%（平成12.9%）、発生程度中以上の園地率は9.7%（平成4.5%）であり、ともに平年よりやや高かった（図3）。
- (2) 発病度は、8月前半まで平年並に推移したものの、8月後半になって平年を上回った（図4）。

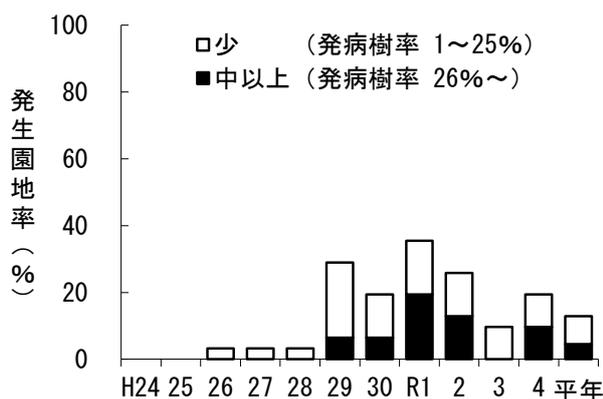


図3 褐斑病の発生園地率の年次推移（8月後半）

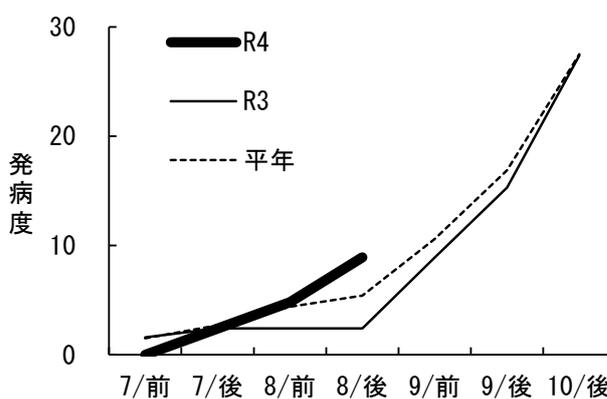


図4 褐斑病の発病度の時期別推移
 ※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病率76%~、B: 51~75%、C: 26~50%、D: 1~25%の園地数

3 黒星病

- (1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は19.4%（平成9.4%）で平年より高かったが、発生程度中以上の園地率は3.2%（平成2.6%）で平年並だった（図5）。
- (2) 地域別の発生園地率は、県北部は20.0%（平成22.0%）で平年並だったが、県中部は26.7%（平成11.3%）で平年より高く、県南部では1園地で発生が見られた（図6）。

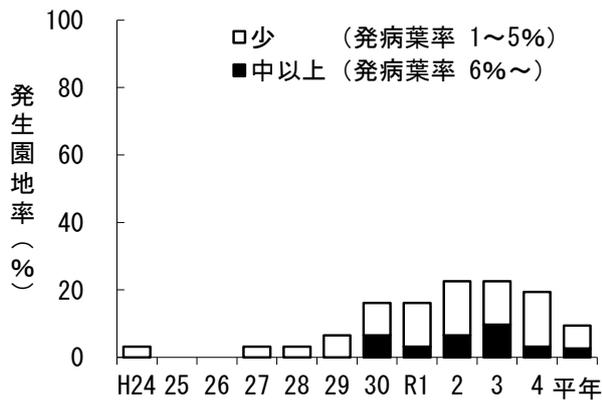


図5 黒星病の発生園地率の年次推移
(8月後半、徒長枝葉)

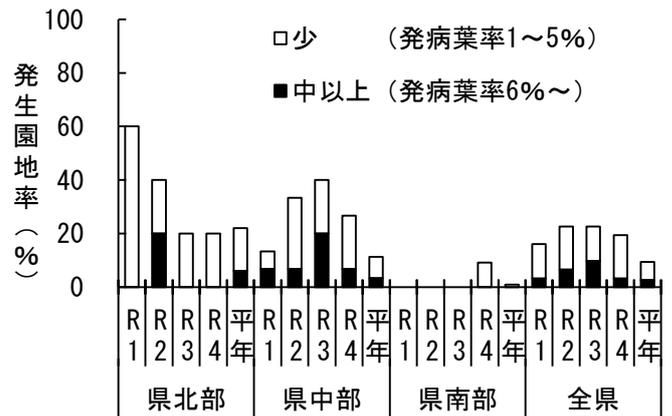


図6 黒星病の地域別発生園地率
(8月後半、徒長枝葉)

4 リンゴハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は35.5% (平年23.2%)、発生程度中以上の園地率は16.1% (平年9.4%)で、ともに平年よりやや高かった (図7)。
- (2) 目通りの時期別発生度は、6月前半までは平年並であったが、6月後半以降は平年より高く推移している (図8)。

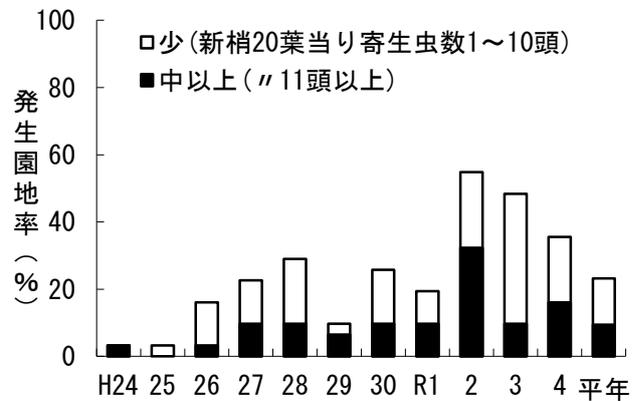


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移
(8月後半、目通り)

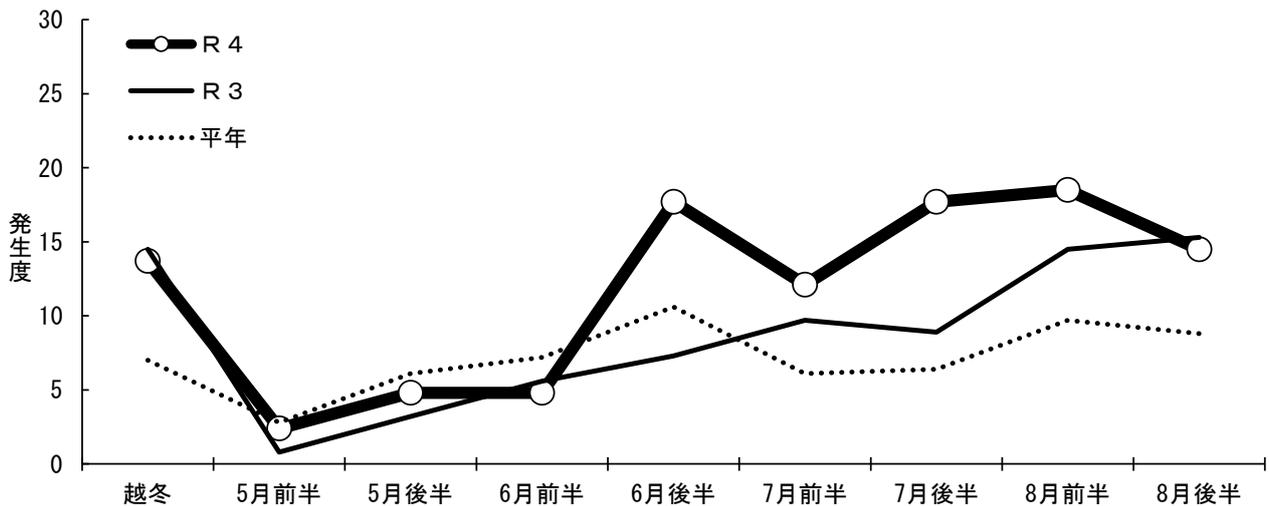


図8 リンゴハダニの時期別発生度の推移 (目通り)

※発生度：(4 甚+3 多+2 中+少) ×100/ (調査圃場数×4)

(発生程度の評価基準は時期によって異なる)

5 ナミハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は35.5%（平年55.8%）、発生程度中以上の園地率は12.9%（平年24.5%）で、ともに平年よりやや低かった（図9）。
- (2) 地域別では、県北部及び県中部で発生程度中以上の園地率が低かった（図10）。
- (3) 目通りの時期別発生度は、8月後半から平年より低く推移している（図11）。

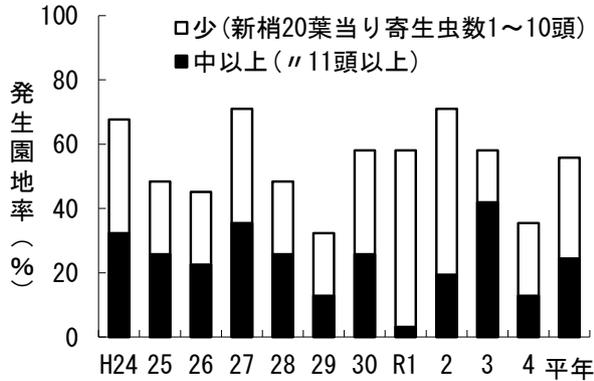


図9 ナミハダニの発生園地率の年次推移（8月後半、目通り）

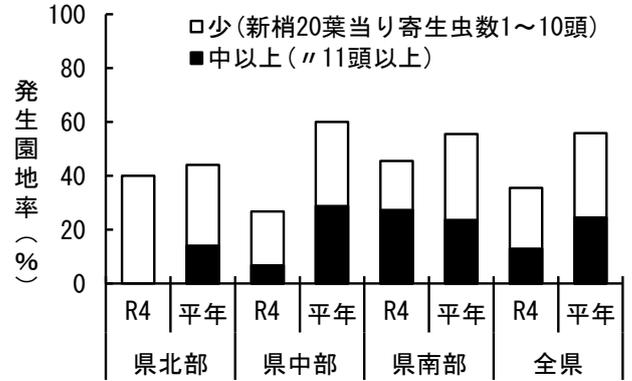


図10 ナミハダニの地域別発生状況（8月後半、目通り）

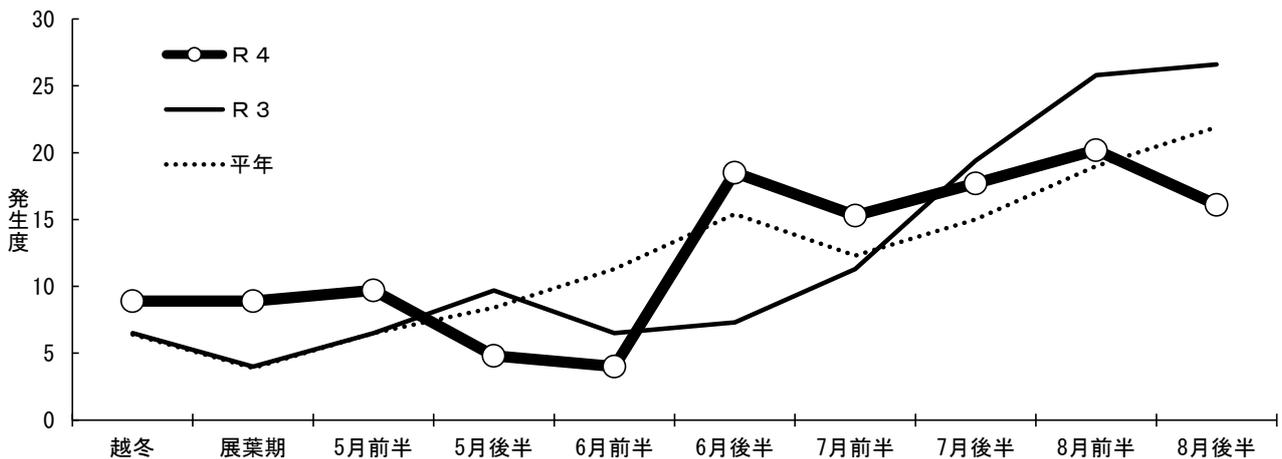


図11 ナミハダニの時期別発生園地率の推移（目通り）

※発生度：(4基+3多+2中+少) × 100 / (調査圃場数 × 4)
 (発生程度の評価基準は時期によって異なる)

6 ハマキムシ類

- (1) 8月前半の巡回調査では、被害は確認されなかった（図12）。

7 キンモンホソガ

- (1) 8月後半の巡回調査での第3世代の発生園地率は25.8%（平年6.1%）で、平年より高かった（図13）。

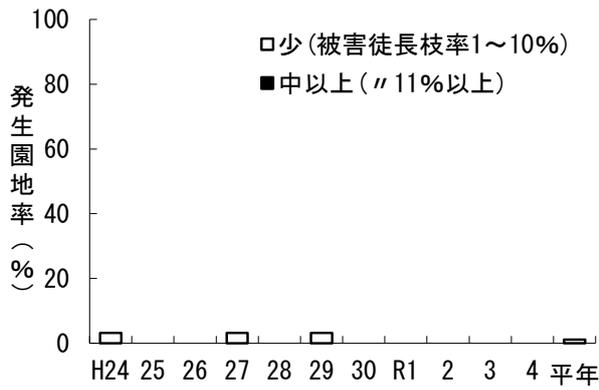


図12 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (8月前半)

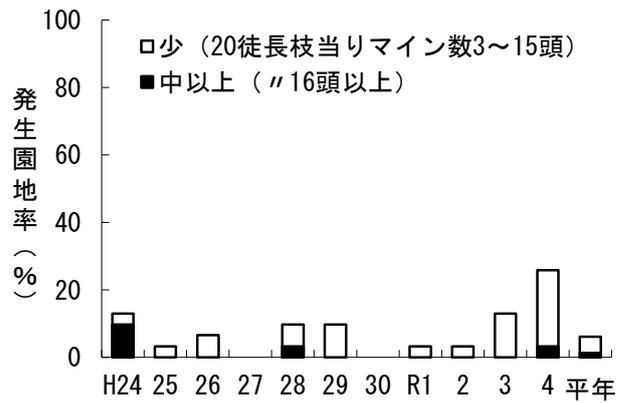


図13 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (8月後半)

8 果樹カメムシ類

- (1) 8月後半の巡回調査での被害果発生園地率は25.8% (平年29.4%) で、平年並であった (図14)。
- (2) 被害果の時期別発生園地率は、7月前半まで平年より高かったが、7月後半以降は平年並に推移している (図15)。
- (3) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、8月は平年より少なかった (図16)。
- (4) チャバネアオカメムシの基準圃場および現地の集合フェロモントラップへの誘殺数は、8月は平年より少なかった (図17)。

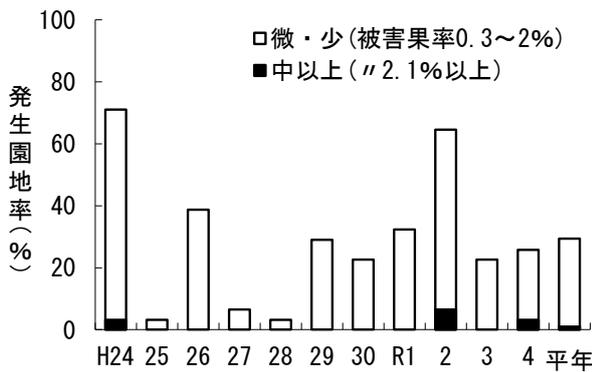


図14 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移 (8月後半)

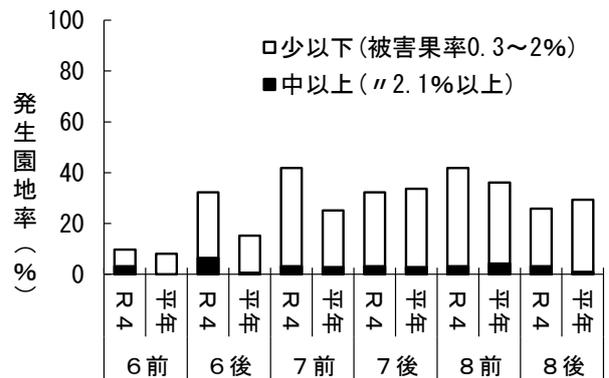


図15 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移

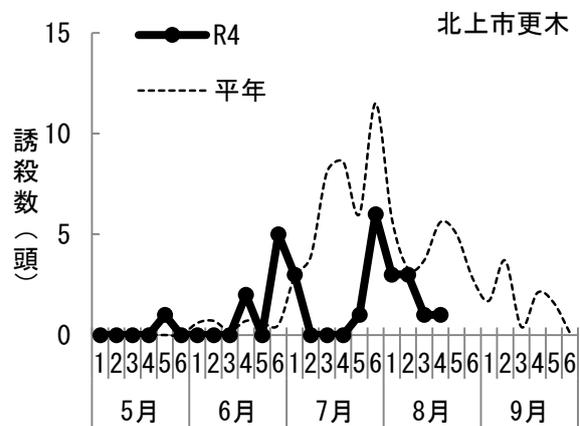
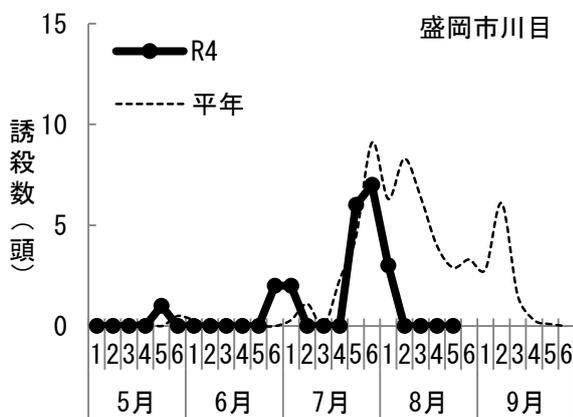


図16 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左:盛岡市川目、右:北上市更木)

